

大相撲秋場所を顧みて

最年長にして2度目の優勝

大相撲秋場所千秋楽の翌日(9/26)の日経新聞スポーツ欄には「37歳玉鷲、最年長2度目 V - 高安との直接対決圧倒」という活字が躍っていました。関脇だった2019年初場所の頃から「並みはずれた突き押しの威力の持ち主だ」と思ってきたのですが、千秋楽の優勝インタビューで見た右の写真のような穏やかな表情の持ち主であることから「勝負師としては限界があるんだな」と思って更なる成長は無理だとあきらめていました。しかし、秋場所での玉鷲の相撲の力強いこと。特に「前に出る」力が格段と強くなっているような気がしました。私は、元大関の小錦さんが言っている「部屋別の稽古ばかりしていても成長することができない」という説をもっともな話だと受け入れています。しかし、玉鷲の属する片男波部屋は所属力士数4名で、全体の40位です。こんな部屋別の稽古さえまともにできない状態で何故玉鷲は「自分を育てる」ことができたのでしょうか。



鍵は「自分の相撲」と「ファンに対する感謝」

玉鷲(東前頭3枚目)は優勝インタビューの中で、優しく穏やかな絵顔を見せながら、ファンの声援に対する感謝の言葉を繰り返していましたね。秋場所の終盤期に優勝争いに加わっている心境についてインタビューを受けた時にも「自分の相撲を取りきるだけです」と玉鷲は答えていました。これで玉鷲は、九州場所には2019年名古屋場所(西関脇)以来19場所ぶりの三役返り咲きが確実でしょう。来場所以降について、「(体は)全然まだまだ元気なんで」とおどけながら、「番付はどこでも自分は変わらない。しっかりやってお客さんを喜ばせたい。」と玉鷲は述べ、ここでも「自分の相撲」と「ファンに対する感謝」を意識しながら、確かな「自分を見る目」で必要な強化部分を見据えて基礎運動を徹底し衰えを知らない心身を築き上げている姿をのぞかせています。

玉鷲と高安の継続発奮に期待

一方、千秋楽に玉鷲に屈した高安(東前頭4枚目・田子の浦部屋)については、場所前に「横綱・照ノ富士のいる伊勢ヶ浜部屋に出稽古に行っている」という話を伝え聞いていたので、「今場所は活躍するぞ」と期待していたのですが、なによりも大関在籍時代を思わせる力強さと逞しさを示し期待通りの活躍を見せてくれました。同門に横綱・稀勢の里がいた頃には、部屋別の稽古でも相応の自己の訓練はできたのですが、今や田子の浦部屋は所属力士数14名で、全体の23位の規模です。部屋別の稽古では果たせない自己鍛錬の場を求めて出稽古に出た心意気は大したものだと思います。年齢も玉鷲より遥かに若い32歳。「自分の相撲」を見極めながら玉鷲と子ども次期大関目指して自己鍛錬を続けていってほしいものだと思います。

筋肉トレーニングを怠った横綱・照ノ富士の凋落

横綱・照ノ富士が10日目にして休場を決めた時には「これぞ世の末」とばかりに落ち込んでしまいました。照ノ富士は、膝の故障のため2019年11月に大関から陥落し序二段にまで下降する中で、膝の治癒に励みながら腕力や体幹の強化などのための筋肉トレーニングを積んでいたに違いありません。2021年5月場所に大関に復帰した照ノ富士には大関から陥落する以前にも見られなかった力強さと逞しさが見られました。そして、ごつつくて守りも強い「自分の相撲」を確立して無敵状態で連覇し横綱に昇進。一人横綱を張り続けてきた白鵬が引退を決意したのも、同じモンゴル出身の照ノ富士が立派に跡を継いでくれるという確証があったからだと思います。ところが、翠富士(西筆頭筆頭)、宝富士(東前頭5枚目)、錦富士(東前頭10枚目)、照剛(東前頭15枚目)も含む所属力士数18名で、全体の13位の伊勢ヶ浜部屋の部屋頭として部屋別稽古に専念しているうちに腕力や体幹の強化などのために行っていた筋肉トレーニングから手を引いてしまっていたようです。

ファンあつての力士なのに

横綱・大関陣総崩れ状態の中で大関・貴景勝(常盤山部屋)だけが辛うじて勝ち越し(10勝5敗)しましたね。しかし、貴乃花部屋次いで千賀ノ浦部屋にいた頃に築いた「自分の相撲」は見る影もない姿でした。隆の勝(西前頭10枚目)を含む所属力士数9名で、全体の32位の常盤山部屋ではろくな部屋別稽古もできないでしょうから出稽古にでも出れば良いものかと思っていたのですが、そんな気配は見えなかったようですね。そもそも、この貴景勝には日本人26歳の青年に持ってほしい謙遜の念が少しもないようです。テレビのインタビューなど見ても、「ファンに対する感謝」などどこ吹く風という感じの渋面を見せるだけですものね。「ファンあつての力士ってものじゃないかこの野郎」と叱りつけたくなってしまいます。

正代に再び吹くか“おかしな恵みの風”

同じく大関の正代(時津風部屋)も、御嶽海(出羽の海部屋)も、ともに4勝11敗という無残な成績で終わってしまいましたね。正代なんか、先場所なども前半に大きく負けが込んで負け越し必至と思われたのですが、途中でやおかしな恵みの風”が吹いてきて勝ち越し。どうも妙ななあと思っていたのですが、やはり連敗する力しか残っていなかったんですね。一時は不祥事を起こして大関の座を追われた朝の山(高砂部屋)と張り合うような形で「自分の相撲」をとり続けていたのにこの体たらくはどうしたわけでしょう。ことによると、正代は朝の山と一緒に稽古できなくなったので自力をつけにくくなったのかな。豊山(西前頭14枚目)を含む所属力士数18名で、全体の13位の時津風部屋としても大関陥落は痛手なので“おかしな恵みの風”でも吹かせ直すことでしょう。

モンゴル人でも玉鷲とは対照的な逸ノ城

先場所優勝して「これぞ次期大関」と私を騒がせた小結・逸ノ城(湊部屋)も6勝9敗の成績で終わってしまいましたね。先場所見せた「前に出る」力の強さはどこに行ったのでしょうか。体の大きさが却って害になるモタモタデブになってしまっていましたね。同じモンゴル人でも玉鷲とは正反対の根暗のようですから、所属力士数10名で、全体の31位である湊部屋でも一人寂しくしているのでしょうか。逸ノ城も玉鷲のように結婚して、スイーツを自宅で奥さんや子どもたちに作るだけでなく周囲にもふるまったりできるようになれば親身になってコーチしてくれる人もできてるだろうに。でも無理なんだろうなあそんなこと。日本人版モタモタデブの私にもできないもの。

嬉しい限り福島県出身の兄弟力士の活躍

そこに行くと同僚・若隆景(荒汐部屋)は、初日から3連敗したので驚きましたが、その後立ち直って大関昇進の手掛かりとなる11勝を挙げるとともに大関技能賞を獲得しましたね。まずはこれが次期大関候補ですが、兄貴の若元春(荒汐部屋・東前頭6枚目)も機敏な動きを見せて10勝5敗。次々期大関候補くらいの存在感を示しました。千秋楽の「三役そろい踏み」には後ろに大関・貴景勝を控えて、前に若隆景と若元春が並んでいました。二人とも元小結の若葉山のお子様で、兄弟が同時に三役そろい踏みに登場するのは、1998年秋場所の若乃花、貴乃花以来24年ぶりだとのこと。ともに福島県出身で福島県を第二の故郷とする私にとっては嬉しい限りでした。

心を入れ替えた翔猿にもご注目ください

しかし、あと一人秋場所の立役者を探すとしたらなんといっても翔猿(東前頭筆頭・追手風部屋)でしょうね。以前からふざけた四股名だと思っていたのですが、往年の名横綱栃錦に似た動きがあるぞと注目していたのですが、相撲の取り口にもふざけたところがあるので将来性は疑問視していました。しかし、秋場所は心を入れ替えて、前に出る相撲を「自分の相撲」にしようと懸命に努めていただけあって10勝5敗の好成績で殊勲賞も獲得しました。「ファンに対する感謝」の方は満点の好青年です。どうぞ皆さんの次々々大関候補くらいには入れておいてください。